

2018年6月20日

### ～ラグビーワールドカップ2019～

## 静岡県内の経済波及効果は120億円

「ラグビーワールドカップ（RWC）2019」日本大会まであと約1年に迫った。RWCは、ファンの規模から夏季オリンピックやサッカーFIFAワールドカップに次ぐ世界的なスポーツイベントとも評される。1987年の第1回（ニュージーランド・オーストラリア共催）以来4年ごとに開催されており、日本代表チームは過去8大会すべてに出場。いずれも予選プールで敗退しているものの、前回大会（2015年イングランド大会）では、強豪の南アフリカを撃破し、日本中が熱狂に沸いた。

日本大会は、2019年9月20日～11月2日まで、国内12会場で20チーム（国・地域）が参加、計48試合が行われる。静岡会場（小笠山総合運動公園エコパスタジアム）では、「日本vsアイルランド」（9/28）や「南アフリカvsイタリア」（10/4）、「スコットランドvsロシア」（10/9）、「オーストラリアvsジョージア」（10/11）の計4試合が開催される予定となっている。また、静岡市と浜松市ではファンゾーンが設置され、日本戦や準決勝、決勝戦などを含む10日間（19試合）のパブリックビューイングの放映、ステージイベントや飲食ブースの出展が計画されている。さらに、浜松市、静岡市、掛川市・磐田市、御前崎市の5市4地域は8チームの公認キャンプ地に選定され、それぞれ1週間程度の滞在が見込まれるなど、地域活性化の起爆剤として期待感が高まっている。

そこで、本稿執筆時点で判明している情報や過去に県内で開催されたイベント等のデータをもとに、経済波及効果を試算してみた（図表）。

#### （1）主催者関連支出

国立競技場の運営などを手掛け、本大会の助成金を支給する「日本スポーツ振興センター」、静岡県、キャンプ地や関連イベントを実施する予定の自治体の総支出額は35億4百万円と想定される。これをそのまま直接効果（事業費のうち県内産業に支払われた財・サービスの金額）35億4百万円とした。第1次生産誘発額（直接効果から波及的に生じる原材料等の生産額の合計）は44億72百万円、第2次生産誘発額（第1次生産誘発額により、雇用者所得の増加分の一部が消費につながることで誘発される県内生産額）は9億4百万円で、経済波及効果は合計で53億76百万円となった。

#### （2）来場者消費支出

過去の県内大型イベントをもとに設定した消費単価に、スタジアム入場者やファンゾーン、キャンプ地、関連イベントなどへの来場者数を乗じて推計した結果、総支出額は58億21百万円、このうち直接効果は43億18百万円、経済波及効果は1次・2次合計で66億30百万円となった。

以上から、「ラグビーワールドカップ2019」関連支出による静岡県内の経済波及効果は120億6百万円と推計される。また、大会開催に伴う観光需要の拡大等を受けて、サービス業などを中心に雇用が創出され、その人数は県内で1,095人と見込まれる。



図表 「ラグビーワールドカップ2019」開催による静岡県への経済波及効果

(単位：百万円、倍、人)

	総支出額	直接効果 (A)	経済波及効果 (生産誘発額)			誘発効果			付加価値 誘発額	雇用 誘発数
			(B)	1次	2次	(B/A)	1次	2次		
主催者関連支出	3,504	3,504	<b>5,376</b>	4,472	904	1.53	1.28	0.26	3,157	524
来場者消費支出	5,821	4,318	<b>6,630</b>	5,651	979	1.54	1.31	0.23	3,742	572
スタジアム入場者	4,448	3,198	<b>4,916</b>	4,185	731	1.54	1.31	0.23	2,778	431
ファンゾーン来場者	320	262	<b>400</b>	342	58	1.53	1.31	0.22	226	35
キャンプ来場者	621	518	<b>795</b>	681	115	1.53	1.31	0.22	447	61
拠点事業イベント参加者	432	339	<b>518</b>	443	75	1.53	1.31	0.22	292	45
合計	9,325	7,822	<b>12,006</b>	10,123	1,883	1.53	1.29	0.24	6,899	1,095

※平成23年静岡県産業連関表をもとに試算

<試算方法・前提条件>

- ・「ラグビーワールドカップ2019」開催に伴う支出額をもとに、平成23年静岡県産業連関表を用いて、経済波及効果（生産誘発額）を2次まで試算した。なお、推計に当たっては事象として明らかなもののみ算入し、テレビ視聴者等による映像機器の購入や商業者による関連セールの売上等は含めていない。

<来場者消費支出の算出方法>

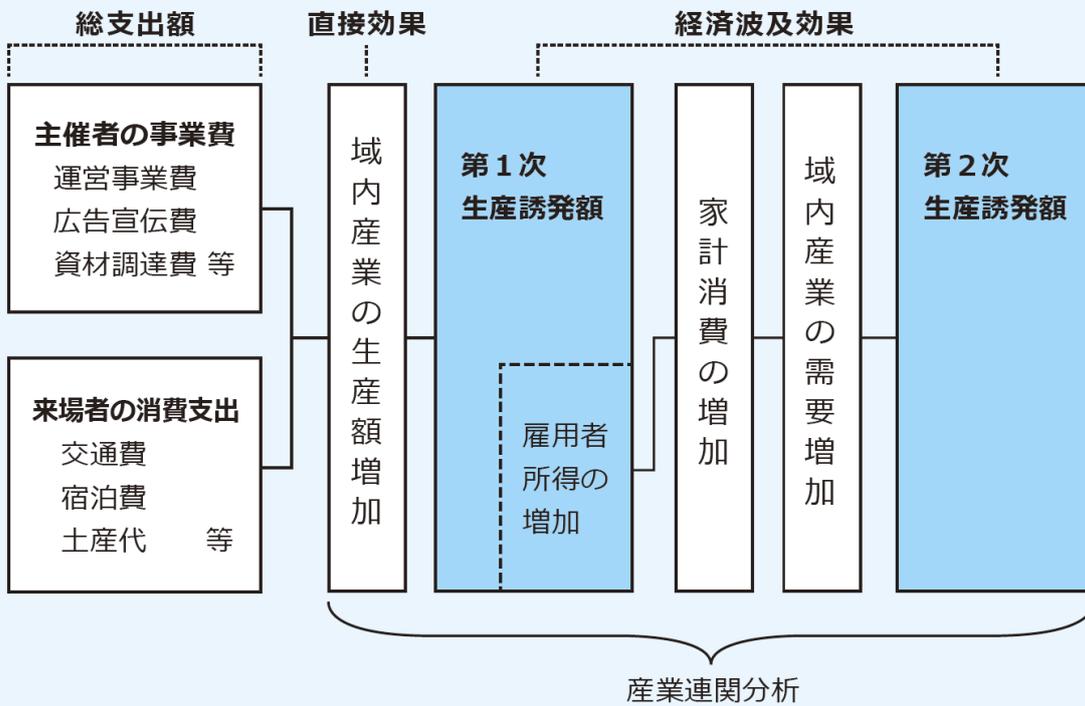
- ・1人当たり消費単価に人数（入場者、来場者等）を乗じて算出した。
- ・1人当たり消費単価は、「2002 F I F Aワールドカップ」や「静岡ホビーショー」、「静岡マラソン」等、過去に県内で開催された大型イベントの調査データをもとに設定した。
- ・エコパスタジアム入場者は4試合とも満員（計20万人）を想定。ファンゾーン来場者は10日間で8万人、キャンプ来場者（ファン、メディア含む）は8.5万人、拠点事業イベント参加者は5市合計12回開催で12万人とした。

<主催者関連支出の算出方法>

- ・「日本スポーツ振興センター」支出は、県内に関係のある競技運営費、警備費等を対象とし、予算総額を開催地数で按分した。
- ・静岡県および関連自治体支出については、静岡県ラグビーワールドカップ2019推進課にヒアリングの上、「2002 F I F Aワールドカップ」開催時の事業費を参照した。

担当：主席研究員 塩野 敏晴 研究員 田原 真一

(参考) 経済波及効果のフロー



あるイベントが開催されると、主催者の事業費や来場者の消費支出（総支出額）が域内産業の直接的な生産額の増加を促す（直接効果）。さらに関連産業などの生産を誘発し、そこで従事する雇用者の所得を増やす（第1次生産誘発額）。そして雇用者所得の増加は、家計消費を通じて域内に新たな需要を発生させる（第2次生産誘発額）。このうち第1次・第2次生産誘発額を合算したものが、経済波及効果として測定される。